潮街小径図録

レトロジカル・ラビリンス
～懐古的迷宮～

そこは、不思議の国への入り口なのかもしれない・・・
貴方も一緒に探しに出かけてみませんか？

放浪記第2弾。奇しくも、前回の旅から約一年という季節に、今回は『海辺』に行ってきました。

今回の同行者にしてこのページの華は、『時を翔る少女』 トキコ (→) です。

――始まりは、実は同窓会。
そこで会えなかった私達は、別の日に会うことにしました。
彼女の希望で、一路『尾道』を目的地にトキコの運転に身を任せてはいたのですが、
悲しいかな 時 間 が な さ 過 ぎ る ！ のです。。。
たどり着いて帰るだけにしても、足りるかどうかという時間しかなかったため、
途中にあるとある海辺の町に降り立つことにしました。

そこはかつて、私が某事情で何度か足を運んだ場所で、いつかゆっくりと散策に来たいっ！
と思っていたところなのでした。

好天に恵まれた初夏の日に、今回はなんとウチの前まで彼女がお迎えに来てくれて、 運転 ： トキコ 、 ナビ ： わたし でいざ出発です。
なんにしても海辺ですから、まずは広島市内へ、そこからは東へ向かってゴゥゴゥです。
街の景色も悪くはないですが、いかんせん『見慣れた場所』だし、本当に尾道まで行くのか？ 行けるのか？、という議論に明け暮れつつ･･･

市内を抜けて近道の山へとさしかかったところでした。 軽く渋滞をしていてゆっくりと坂を登っていたからこそ見つけたその店は。

『怪しい』

のですが、なんとも惹かれる古めかしさと奇妙さ不思議さに溢れかえった 古道具屋 だか 骨董品屋 だか。
思わず車をとめて吸い込まれたい気持ちありつつ、車を停める場所がなければ時間もない！
というわけで、後ろ髪惹かれつつ素通り。

山越え山越え約2時間。
山っ子はやっぱり山が落ち着くよね。そんでもって海はわくわくするの(笑) なんて話もしながら、田舎田舎したある道にさしかかったところで。

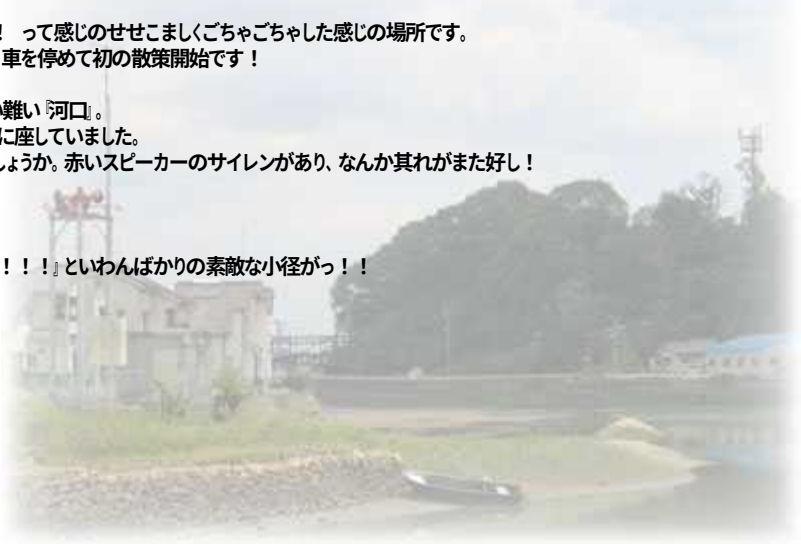
つ ： おじーちゃーん！！！ ･･･いいなあああゆーの(笑)

田植え機に乗って、ぽぽぽぽぽ･･･とゆっくりゆっくり道路を走るその姿。後ろの車は抜かすに抜かせずついていってたり、隙を見て抜かしてたりしてましたが、ああいう光景ってほのぼので好き(笑)

そこからほどなく、私の提示していた某海辺町に着きまして、時刻はお昼少し前。
尾道は無理だ。 ということで、行きつけのコンビニ(笑)にてお昼ゴハン。
運転＆ナビ ： わたし 、 観光 ： トキコ に交代して再出発です。

まず向かったのは、急傾斜地地区。車を停めて小径を歩ければよかったのですが、車停めるトコがないんですよね、そこって。 せまい道をゆっくりと走りながら見せてまわってそこは終わり。
少し戻って次のオススメポイント。『海辺の町』ー！ って感じのせせこましくごちゃごちゃした感じの場所です。
とにかくせまいせまいせまーい道を抜け、ようやく車を停めて初の散策開始です！

家のある通りを抜けるとそこは、川とも海とも言い難い『河口』。
干潮が近いのか、水は少なめでボートは砂の上に座していました。
台風でも来て波が高くなったりすると鳴らすのでしょうか。赤いスピーカーのサイレンがあり、なんか其れがまた好し！
トキコのお気に入りです☆



そこからしばらく行くと、いかにも『入り込みなさい！！！』といわんばかりの素敵な小径がっ！！
二人で写真を撮りまくります(笑)
その道を我慢してもう一区画――

あったー！

迷え迷え迷い込め。

惹かれるままに吸い込まれてゆくことにしました。

壊れて動かない自動販売機。

人が居るのか居ないのか、生活観の漂う家。

そうかとおもえば、明らかに空き屋となって打ち捨てられた家。

この道だけでなく、この当たり一帯がそんな感じなのです。

小径を抜けるとそこには橋が架かっていて、それを渡ってさらにゆくと、目の前に坂道が現れました。

段々になっているようなそうでないような斜面。
見上げた先に見える空。
視界の右には小さな森のような林のような。。。

ト ： のぼる？
つ ： のぼる？
ト ： のぼろっか？！
つ ： のぼるっきゃないでしょ！

なんていうかそんな勢いで思わず登る(笑)
そこから見下ろす町の景色は、良い長めなんだけど気分的に見えて欲しくないものが在ったりして（マンションとかデパートっぽいスーパーとか）、ちょっと複雑･･･

次に向かったのは、大パノラマの素敵な海辺の小高い場所にある公園。
湾の中には、広島ならではの『牡蠣筏』。　湾をまわりこんだ対岸、海に架かる橋、見上げれば青い空･･･

某テーマパーク――　**の 入 り 口**　を目指している途中に公園の看板があって、行ってみようか？　って行ってみたんですが、車で坂を登りながら緑鮮やかな桜並木にさしかかったところで、二人してこの景色に目を奪われたのでした。

つ ： 木のこっち側から見るのがまた素敵じゃない～？
ト ： えー。 私は木のない方がいいなあ

あなたははどっちが好きですか？　･･･なんて (苦笑)

桜の木は、薄桃色の花を紅い実に変えた頃。小さな『さくらんぼ』が沢山なっていました。

つ ： うわー。うまそー　　――ってホントに喰ってみるバカ (爆)

結果は推して知るべし！！

･･･っていうか、ご想像通りです。不味くて食えたもんじゃあございません。すんごい苦いです。しかも、それが口の中に残ります。
はあ。見た目はあんなに綺麗で可愛いのに。。。鳥は食べるのに。。。(違)

桜並木に並んでずっと藤棚があります。その向こうには、多分サツキです。とても美しく植えられています。
春の始めにまず桜。花びら散って今度は藤。また入れ替わるようにサツキが咲いて、その頃には葉桜とさくらんぼv
夏には涼しい木陰で、秋になればきっと紅葉も綺麗です。(←もみじじゃないよ)
沿岸部なので、冬は雪も降らすにあったかなんでしょうけれど、ここはやっぱりそこそこ雪の降り積もって欲しいと心底思う自分です (笑)

ここがあんまり素敵だったので、本来行こうとしていた場所は、行ってみてもさしたる感動はなく次へ･･･ (苦笑)

さて。メインステージはここからです！
同じくごちゃごちゃした感じの町並み･･･
ではあるのですが、さっきの場所とはちょっと違います。
古い家並み、せまい小径、整然と並んでいるようなごちゃごちゃしているような――
なんていうか迷路です。
私が一番来たかった場所でもあり、一番気に入ってた場所ですvv

ここにはひとつ、とても惹かれる『こと』があるのですが。
なんと！　この1～2キロ四方のせまい場所で、
『お地蔵様八十八ヶ所巡り』
ができるのです！！！

もちろん、私達もできうる限り！　巡る来満々です♪
案内図とかいったものはないので、
お地蔵様がどこにいらっしゃるのかは地道に捜索です。

それでなくても、この『迷宮小径』は見所満載なのですがvvv

素敵なトコ其の壱　『川の上の庭』

川の上に鉄板を渡して、その上に植木鉢やプランターを置いて飾ってお庭にしてあるんです。
上を見れば、物干し竿だってあります！
この水路のような川のある通りの家の3分の1から半分くらいがこんな風にしてらっしゃいます。

お庭にはなっていませんが、裏口なのか玄関なのかに鉄板の橋を渡しただけのシンプルなお宅もあって、そこはなんか、『漁師の家』っていうかんじで(←私の勝手なイメージ/笑)素敵でしたvv

素敵なトコ其の弐『猫の国』

ここにはなぜか猫が多い！！！　それも、ある一ヶ所に固まって。 さらに何故か、黒猫が多い！
あ。 と一匹見つけたら、角を曲がると二匹いて、次の角を覗きこむとその倍いて…！！！
逃げも隠れもしないふてぶてしい奴から、目が合った瞬間一目散に逃げる奴、一定の距離を置きながらこっちを見てる奴･･･とイロイロです(笑)

素敵 其の参
お 稲 荷 様 ー ！ ！

お社があって、鳥居があって、お稲荷様が居て、なんとも言えないこの雰囲気！　たまりません～～vv
大きな道からではなく、ちょっと小径に入らないと正面からお社を見られないっていうのもまた素敵v
そしてその小径の先には、かがんで歩かないと頭をぶつけてしまうトンネル･･･というか高架下。

そう。この上、線路が通ってるんですよ～☆

お稲荷様撮影にあたり、なんだか真正面からあからさまに撮影すると失礼なような気がして、ちょこんとかすかに写るようにだけ撮らせていただきました。ケドそのおかげで、鳥居も高架下も一緒の画面に納まるという贅沢なアングルなんですが(苦笑)

ちゃんと、『写真撮らせていただきます』って言って撮りましたですよ。『お邪魔します』って言って、撮影こそしませんでしたが鳥居をくぐってお社も拝見させていただきました。

はあvvv　いいですよね～～、お稲荷様vvv(萌)

え。当然高架下はくぐります！！！(握り拳)　なんていうか、その先にはまた違った世界が広がってるような気がしませんかっ？！　**素 敵 其 の 四** です！！

――実際には。少しだけ、違った世界でした。

ト ： 白い道に濃い影が落ちてて、なんかもう"夏"！ってかんじでいいわあvvv

照り返しの眩しさが増す昼下がり。
またしても黒猫が現れたりする小さな路。計ったようにポーズを取りながら、一定の距離を取りつつ去ってゆく猫。追いかけるように歩く私達。
その目的地は、高架をくぐった直後に見えていた『神社』。
まっすぐ歩けばすぐついてたんですけど、やっぱりちゃんと正面――玄関からきちんとお邪魔しなくてはね。

というわけで、道の方向から参道の入り口を推測して歩いていたのでした。

そして見つけた鳥居。すなわち玄関！　素敵其の五 『 **神 社** 』 です☆
お尻をつけずに立っている狛犬様がなんだかめずらしくって、『写真撮らせていただきます』とまたお断りを入れて撮影。

参道と民家(の庭)が合体してるというか隣接してる光景も、なんだか珍しく感じるのですがどうなんでしょう･･･？！

参道を歩いて境内に入るとそこにはブランコが！
思わず歩み寄り乗っちゃうトキコ。
私はというと、小さな境内を散策。
古井戸や水のない――あれなんて言うんでしたっけ、手を洗う石の･･･ほら、柄杓があって･･･(汗)とか、境内に隣接してる家はさすがに神主さんの家よね？　とか。

境内手前の『玉幸橋(たまゆきはし)』と、この神何祀られている神様と地元のお祭りの意味や由来のかかれた掲示板？　にも魅入ってました。

神社を後にして少し行くと、今度はお寺がありました。 神社とお寺がこんな近くにあるなんてっ！！(笑)

さすがにお寺に入ると不法侵入かしら？ (じゃあ神社はどないやねん？！/苦笑) というわけで、門からちょこっと覗いて、手入れされた綺麗な庭と、背後の急斜面の山にお墓が並んでいるのをみて『うわあ』とか思うだけにしてそこは後にしました。(今回は、ぴーんぽーんゆわんかったよ/笑) ←廃校記参照。

お寺と少し広めの道を挟んでなんか倉のような建物があって、その先に、
素敵其の六 **『気になる階段』** がっ！！

少しためらった後、 **登 り ま し た さ ！** (笑)

苔生して、どこか朽ちたような寂れたような古めかしい石段。四十段くらいだったでしょうか、登りきるとそこからは山道で、行こうと思えば行けたんですが、草は凄いし蜂が出るしで断念･･･！
山の中にあったんですよー！ なんか小さなお社がぁっ！！ 行きたかったよ～～(涙)
『冬に草が枯れて虫が出なくなったら行ってみようね…！』 その約束は果たされるのでしょうか――いや、多分果たされない･･･ (反語？)

後ろ髪ひかれつつ階段を後にしてまもなく。
またもや気になる小径が出現です！
坂道だし白いし、曲がりなりにも尾道行きたかったわけですから、これは登らないと！ (笑)

登り登ったその先には、体育館らしき建物。その手前に石の門柱。
学校みたいです。きょうびの事ですから入るのはためらわれます。(それでなくても平日だし！)
敷地に入らなくても道が続いていたので進んでみたんですが、おもっきし子どもがいたり先生がいたりして慌てて引き返しました (苦笑)

どうにもコチラは裏門っぽかったんですが、坂はきついけど木々が良い感じに植わって張り出していたりして、雰囲気としては凄く良い道で、こんな坂道なら通うのも悪くないかもな～ってかんじでした。

さあ。登ったからには今度は下るわけですが、振り返ってみて初めて気付くその素敵な眺め！！！ ッてやつですよ！！
二人で叫ぶ叫ぶ (笑)
線路が見えるとよりテンション上がってみたりして (爆)

都合よく電車が通らないかしら？！ なんてことにはなりませんでしたが、

ト ン ネ ル だ し ！　単 線 だ し ！

それに高架だし、斜面だから同じ高さに家があったり窓があったり、
町並みのごちゃごちゃ感も素敵に見えるし、そんな町並みなら電線も
何故だか素敵に見えたりして♪
遠くには山も見えるし、手前に張り出した木々の枝葉は邪魔なようで
実は絶妙な視界を作り出してて素敵だし！

素敵ですよね。
登るときには上を見上げて見える物を楽しめて。
下るときには見下ろして見える物を楽しめて。
それが全然違うもので！

素 敵 な ト コ 其 の 七 『 坂 道 』 でした♪

エトセトラ。其の1。

ただの廃屋なんですが、 **女 郎 屋 希 望** ｖ ｖ ｖ (笑)

エトセトラ。其の2。

古き良き(？)自動販売機。

メロン逆さまだし(苦笑) →

其の3。石垣。

なんか、ナウシカとかラピュタって雰囲気ないですか？

手前の自転車だか何だかが無かったらもっと素敵だったんだけどなぁ･･･

エトセトラ其の4。

屋上とかバルコニーとか
なんか素敵じゃないですか？

トキコお気に入りの家。

ト ： 屋上あがりたいーッ！

この小径迷路で一番素敵だったと言っても過言ではないかもしれないのがココから。。。

素敵其の八『小さな扉の向こうには・・・』

トキコがセピアなのは当然として(ェ？)、これは合成ではありません！

ホントにこの大きさなんです！！！

地面から数十センチも上にあるトビラ。でも、かといって上は標準的な高さなので、当然ながら一回りコンパクト！
上下がこんなだからそう感じるのかもしれませんが、横幅もなんか一回りコンパクトな感じしませんか？！

そして気になる扉の向こう。
これは普通の民家？　だとしたらこの先はどんな部屋？　台所の勝手口？　それとも離れの入り口？　実は倉とか？？

疑問はつきません･･･！！

『海辺の町』っていうことを考えると、大雨なんかで水位が上昇したときに、あっさり家が浸水しないように高い位置にトビラがあるのかしら？

歩きながら他の家も観察していると、どうも一段高いところに玄関や扉のある家が多いように感じました。

そんなこんなで小径の迷路を進みます。

次に現れたのは、これまた合成ではありません！　実際の大きさです！
大きさもさることながら、形や素材がすてき！

けど、なによりこの **門がある場所** ！

せまい小径の入り組んだ路地裏の、日陰の角っこ。
家の裏口か何かなんでしょうけど、どうして突如こんなところに？　っていうかんじで、けど、それが許される町並みなんですよ、この場所は！！

ああ。この門もくぐってみたい！
その向こうはいったいどうなっているの？！

――ただの家の庭や部屋があることは容易に想像できるのですが、どうしても夢が膨らんでしまう雰囲気の門であり、先ほどの扉なんです。

ところで。
ココを歩き始めたと同時に始めた『**お地蔵様八十八ヶ所巡り**』ですが。
何気ない街角に、民家の片隅に(！)、お稲荷様のそばに、坂道の途中に社が･･･と、いろんなところにお地蔵様いらっしゃいました。
文字が薄れてて何番のお地蔵様かがよくわからなかったり、同じ場所に続き番号、あるいはまったく関係ない番号どうしのお地蔵様が複数でいらっしゃったりというかんじで。　地図もなければメモとったりもしてませんでしたから。
どこにいらっしゃったかは覚えていても、何番とお会いしたかっていうのは途中からさっぱりでした(苦笑)

観光案内マップとかが実は存在していたりして、そしてそこに載っているのなら、今度はそれを片手に全てのお地蔵様を巡ってみるのも良いかもしれません♪
けど、こうやって迷いながら？、あてもなく歩きながら彷徨いながら、行き当たりばったりにお会いするのも、それはそれで素敵な感じです☆

時間も限られたものです。
まだまだ歩き足りない――だって、まだたどりつけてない区画もあるんですよー！――ですが、帰らなくてはいけません。
回り道して帰ることも出来ましたが、あんまりそんな時間もありませんでしたので、運転をまたトキコと交代して、ちょっとだけ旧道をまわって、まっすぐ帰り道です。

つ：あー！　あれは！？

何を見間違うことがありましょう。　来るときとほぼ同じ場所で、田植え機に乗ったおじいちゃんを発見 (笑)
ああ。平和だなぁ･･･ (爆)

帰り道での会話は、歩き回った小径の余韻。　そして、また放浪記 (コレ) を書こうか！　っていう話に。
じゃあタイトルを決めなくちゃってことになって、二人して使いたい単語をピックアップ。そしてそれを組み合わせる！！！
結局、帰り道の3分の1くらいをこれに費やすほど大熱論 (笑)　試行錯誤を繰り返して、原稿タイトルも無事に決まりましたのです。

まっすぐ地元まで帰り、今度は私の車に乗り換えです。

そして向かったのが、　山　！　（ 爆 笑 ）

最近の私のお気に入りの山です。
以前は夜に来たため何がどこにあるのか良く分からなかった景色を、今度は明るいうちに堪能ですw

それがこの景色。いやもう。一体何の説明が要りましょう？　言葉もなくただただ魅入るばかりです。

ちょっと怖かったのがですねー、誰も来ないと思ってたこの場所に人が来たんです！ (汗)
しかも、お役所の車ー！！ (滝汗)

やばい。怒られる？

･･･ていうのは杞憂に終わりました。
ちょっと会釈されただけで、その人はなにやら写真を撮ってさっさと去って行きました。それでもなんか不安でしたが、その後何もないので善し！ (笑)

ちなみに･･･

どのくらい山かって言うと、このくらい。　→

分かりやすく？標高で言うと、
600メートルくらいの場所。

ちなみに私 (達) の家は
300メートルくらいのとこです。

ト ： ココで死体が見つかったら、私ら真っ先に疑われるね (笑)

そのくらい山な感じで (笑)

トキコがタイムリミットを迎えたので、またどこか行きたいねーなどと言いながら山を降ります。

街までトキコを送っていったので、都合一気に600メートルを降りたわけですが (笑)
夕方の混んでる時間ではありましたが、たった30分かそこらでこの高さを降りるのも手伝って、なんというか、うまく表現できないんですけど、ちょっと不思議な気分でした。何せいつもの倍ですから。

トキコを無事駅まで送り届けて、今回の旅は終わりです。

そうそう。

こんなところでこんな形の報告となってしまいましたが、例の廃校記の校舎、実はもう潰れちゃってるのです。
春先に再訪する機会があってそのときに見たのですが、お隣りのおばあちゃんの話だと、今年 (2005年) の3月くらいに、ある日突然。大きな音を立てて屋根が落ちて潰れてしまったのだそうです。

建物が崩れる前に遊びに行けて探索ができていて、ホントによかったなぁと、思うと同時にとっても寂しいです。
写真の中ではいつまでもあの校舎は建っているんですもの。

今回の旅が一年ぶり･･･

ということはまた一年後かな？　なんて (苦笑)
一年と言わず、もっと先かも知れず、でもきっとまた旅には出ます！

そのときはまたこうしてレポートさせていただきます♪

貴方だけの不思議の国は見つかりましたか？
どうぞまた、いつでも此処に迷いこんでくださいませ。

Powered by FC2.com